

CLUB HARLEY SPECIAL ISSUE

THE PROFESSIONAL BOOK

ザ・プロフェッショナルブック
CLUB HARLEY 3月号 Vol.140
特別付録

DENIM



ACCESSARY



INTERIOR



JACKET



BOOTS



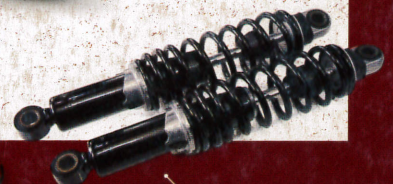
MAINTENANCE



JACKET



PARTS



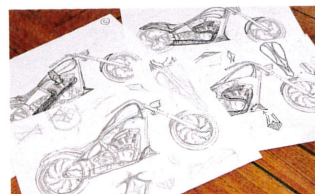
ハーレー乗りなら
知っておきたいプロショップガイド。

トライジャのカスタムができるまで

デザイナー



代表の岡本さんがユーザーのイメージから全体のデザインを作り上げる



オーナーと打ち合わせ

オーナーの大まかなイメージを聞きだしてカスタムのデザインを考える。手書きでラフスケッチも行う

メカニック



エンジンや車体まわり、パーツの組み付け配線などを行う



ベース車両とパーツの仮組み

ベース車両をチェックして、予算にあったカスタムのプランを考える。ベースに使う既製パーツを組み付けてバランスを見る

メタルワーク



デザインをもとに板金やワンオフパーツの製作を行う



ベース車両に合わせたワンオフパーツをデザインを元に作り出す。既製のパーツを改造したり、シートメタルから作ることも

プロのこだわり 2

カスタムは各ジャンルのプロが工程を担当する。

トライジャの大きな特徴といえるのがアメリカのシステムに基づいた分業制。デザイン、メカニック、メタルワークの3ジャンルをそれぞれのプロが担当することで、高いクオリティを維持しながら効率よくカスタムバイクを製作できるのだ



代表の岡本さん(上段中央)を中心としたチームワークがトライジャの力なのである

デザイナー

仕上がった車体の仮組みを元にデザインを再調整。写真を撮ってペイントのデザインもCGで起こす

メカニック

塗装の済んだパーツを組み上げる

デザイナー

試乗、再調整をしてオーナーのもとへ

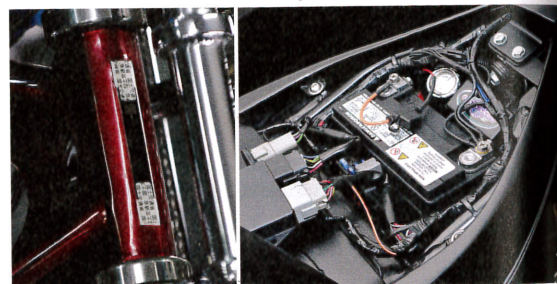
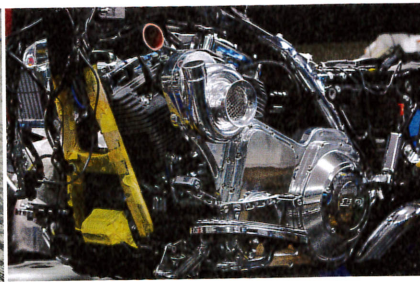
プロのこだわり 3

ワイドタイヤからプロチャージャーまで取り付けに自信アリ。

トライジャの十八番と言えのがワイドタイヤの組み付け。市販タイヤで最も太い360まで入れることができる。ダイナマイトヒップにしたい人はぜひ。他にプロチャージャーの取り付け、セッティングも実績がある。異次元のクルージングを可能にしてくれるぞ



ファットボーイをベースに300のワイドタイヤを組み込んだフルカスタム。タイヤにあわせてエンジンとミッションの位置まで変更している



構造変更をしてしっかりと公認車両としてから納車される
配線は純正のままか、同色のコードを使って製作される

プロのこだわり 4

こんなフルカスタムでも公認車両。

ランボルギーニをイメージしたというレヴェントン。こんな原型をとどめないほどのフルカスタム車両でも構造変更でしっかりと公認車両にして納車される。これはまさかの事故でも違法改造車扱いされないための配慮。さらに配線は必ず純正の状態か同色の配線を使う。これは万が一ツラリング先などでトラブルが起きたときどこでもわかりやすいようにと言う配慮。オーナーは安心してフルカスタム車両でどこまでも走っている、というわけ

SHOP DATA



トライジャ

大阪府柏原市本郷5-4-18
TEL072-970-3110
www.trijya.com
営業時間/10時~18時
定休日/第1、第3火曜、毎水曜日
クルマ、バイクの場合:西名阪自動車道の藤井寺インターから170号線を北上。
電車の場合:関西本線の志紀駅より徒歩



各セクションをプロが担当することで、ハイクオリティなカスタムを生む構想集団。

トライジャ
TRIJYA

in Osaka 大阪

カスタムができるまでには、デザイン、板金、組み上げ、塗装など多くの工程がある。それぞれの工程をスペシャリストが受け持つことでハイクオリティなカスタムを生み出す。それがトライジャのスタイルだ。

text/A.Takeuchi 竹内淳 photo/S.Tsumumi 堤晋一



アンダーカウルカバー
価格問い合わせ
LEDを内蔵できる
フットボード
6万3000円、
プレーキペダル
1万3900円、
VESTAエアクリナー
4万6000円

プロのこだわり 1

日本の技術をカスタムに

アルミの削り、にこだわった刻美のシリーズは装着しただけでカスタム然とした雰囲気と、高級感が加えられる人気のオリジナルパーツ。削りの目までデザインする精度はメイドインジャパンでなくては作り出せない。真鍮やスワロフスキーを配したシリーズもある



ダービーカバー
3万6000円、
グリップ各3万1500円

カスタムバイクが出来上がるまでには多くの工程がある。カスタムの世界は、それを一人のビルダーがすべて手がけているように思いがちだけれど、実際にはエンジンなどのメカが得意な人、板金が得意な人...とそれぞれ得意なジャンルがある。「アメリカンチョップパーとか見たことあるやろ。デザインする人、バイクを組む人、パーツを作る人つてみんな分業してる。アメリカのショッブはみんなそういう分業のスタイルウチもそれぞれの分野を、プロとして担当しているから、クオリティを落とすことなく、効率よくカスタムを作ることができると代表でありデザイナーを務める岡本さんは言う。板金が得意な人が配線をやっても上手くないだろうし、逆もしかり。得意な分野をそれぞれがプロとして担当することで、全体の完成度を高

める、それがトライジャのカスタムに対する考え方だ。完成する作品の迫力とクオリティをみると、カスタムの費用も相当...と想像してしまうが、実際にはCVOを買うのならばというレベルからオーダーができるとお伝えしておく。もちろん外見だけでなく、走りのほうのこだわりも強い。ワイドタイヤを入れるためにエンジンマウントまで作り直して、重心をとりなおしたり、プロジェクターの取り付けも実績豊富だ。そこまでカスタムしながら、配線は純正であること、または同じ色を使うことにもこだわる。理由は何処でトラブルにあっても何処のショッブでもメンテナンスできるように。オーナーが安心して走りまわれるカスタムハーレー、それがトライジャのこだわりのクオリティなのだ。